

Gnoble information paper
Gno
-info

Topic

「高大接続改革」を
リードする、
大学の教育



P.02-03

卓越性・多様性を高め、
「タフでグローバル」に

東京大学

世界・社会に窓を開く
「WINDOW構想」

京都大学

「たくましい知性」と
「しなやかな感性」を育成

早稲田大学

学ぶ志を最優先。学修の“切れ目”を
取り払う「学院」制度

東京工業大学

専門の枠を超え、
総合的に俯瞰する力を育成

筑波大学

教養教育を土台に、
学部再編で専門性を深化

横浜市立大学

いよいよ2年後に迫った「大学入学共通テスト」の導入。センター試験が廃止され、記述式問題の実施や民間英語試験の活用など新たな仕組みに変わること大きく注目されています。改革初年度に受験生となる新高校2年生にとっては、都度公表される入試改革の情報は気になるところでしょう。

しかし、共通テストの導入は「高大接続改革」の一端に過ぎません。実は既に、大学側の教育改革は進められているのです。一昨年度には入学者選抜・カリキュラム・卒業認定の3つに対して、各大学が具体的の方針を示し、実行・改革することを文部科学省が命じました。これに伴い、大学では早くもカリキュラムの進化・変更を進めており、合わせて個別入試においても新たな取り組みを始めています。

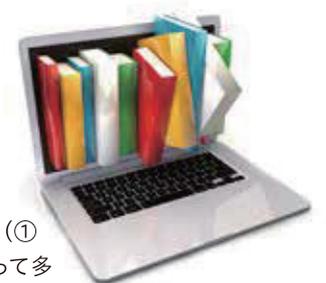
分野横断型学修にデータサイエンス。
大学が次世代の教育体系を提唱

文部科学省が掲げる高大接続改革の基本方針は、「学力の3要素」(①知識・技能の確実な習得、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)を備えた人材の育成です。国際化、情報化が急速に進む予見の困難な時代において、社会で自立的に活動し、新たな価値を創造するための力を育てることが急務であるとして、各大学にも改革を求めています。

その大きな流れの一つは「グローバル教育」でしょう。留学の促進や英語による授業の導入などを進める大学が増えています。しかし、一言に「グローバル」と言っても大学により解釈は様々です。英語教育だけではなく幅広い教養と高い専門性の両立や、主体性・リーダーシップをグローバル人材の素養として挙げる大学も少なくありません。

さらに、超情報社会で新たな仕組みを生み出せる人材を育てようと「データサイエンス教育」に力を入れる大学が増えてきたように、新たな学問領域の創出や、その分野で世界・社会をリードする人材の育成にも各大学が力を入れています。

2020年の「共通テスト」導入をエポックとした教育改革。について、「大学入学共通テスト」の情報に目が向けがちですが、改革を進める大学の取り組みやその狙いを知ることは、自分自身の選択の幅を広げることにもつながるでしょう。今回の「Gno-info vol.7」では、積極的に改革を進める大学の取り組みを通じて、次世代の教育体系を確認します。



P.04

News Hotline

千葉大が20年度から
海外留学を必修化

中学受験、科目選択の幅に拡がり

東京大学が受験生向け特設サイト
「キミの東大」開設

■ 中高生の英語学習
文章を読み、考え、伝える力を

コラム

グノーブルの個別指導 グノリンク

渋谷・四谷・巣鴨

小学生-
大学受験生
対象

GnoLink 個別指導 グノリンク

※詳細はホームページまで

卓越性・多様性を高め、 「タフでグローバル」に

東京大学

国際的レベルの コミュニケーション能力を育成

東京大学では、英語教育にますます力を入れています。15年度には1年生向けの必修授業「FLOW(Fluency-oriented Workshop)」を導入しました。ネイティブ教員が担当し、少人数授業で英語でのアカデミックな討議力を鍛える授業です。既に東大生の英語学修にとって大きな礎として定着した「ALESS」(Active Learning of English for Science Students:理系学生対象)と「ALESA」(Active Learning of English for Students of the Arts:文系学生対象)の英語による論文執筆・プレゼンテーションの授業も含め、単に言語として英語を操れるだけでなく、自分の意思を国際的な環境でしっかりと伝えられる力の育成に重きを置いています。

18年度には、国際総合力認定制度「Go Global Gateway」もスタートさせました。大学生生活を通じて世界の多様な人々と共に生き、共に働く力を身に付けた学生に対して認定証を授与する仕組みです。学生が達成度を実感しながら自らレベルアップできるようにするための制度で、認定を受けた学生のみが参加できる交流イベントや短期留学プログラムなどの企画も推進しています。一部の国際派の学生だけではなく、高いポテンシャルを持った多くの東大生に国際総合力を発揮してもらうことが新制度の狙いです。

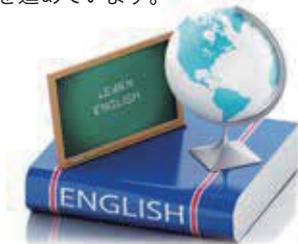
卓越性と多様性の相互連環

国際総合力をキーワードとした同大の教育改革の発端は、濱田純一前総長が掲げた「タフでグローバルな東大生であれ」というスローガンにあります。世界の様々な人々の知恵を組み合わせ、積極的、能動的に課題を解決できる人材の育成を東京大学の役割と掲げ、教育面の充実はもちろん、研究機関の高度化や世界展開、社会連携に力を入れてきました。

この流れを汲み、15年度から進めている「東京大学ビジョン2020」では、「卓越性と多様性の相互連環」を基本理念に東京大学が「知の協創の世界拠点」になることを目標としています。

文系・理系のあらゆる分野で「卓越性」を目指すことは当然としながら、「卓越性」が分野ごとにバラバラに併存するのではなく、異分野間、異なる者同士が互いの差異と固有性を尊重しながらぶつかり刺激し合うことが不可欠と考え、「卓越性と多様性」を理念として掲げているのです。

世界トップを目指す、日本を代表する総合大学として、従来からの高い研究力を活かしつつ、国際レベルのコミュニケーション能力と多様性を備えた人材の育成を進めています。



世界・社会に窓を開く 「WINDOW構想」

京都大学

「世界への窓」で チャレンジできる場づくり

創立以来、「自重自敬」の精神に基づいた自由の学風のもと、創造的・先端的な研究を推進し、多くのノーベル賞受賞者を輩出している京都大学では、「WINDOW構想」を15年度に掲げました。次代の大学を「世界や社会に開く窓」と位置付け、「野性的で賢い学生」を育て、それぞれの活躍の場へと送り出すことを目標として教育の国際化や地域・社会との共生に力を注いでいます。

特に力を入れるのは、「世界への窓」を開く異文化理解の場づくりです。その象徴的な取り組みに、16年度スタートの「おもろチャレンジ」があります。「野性的で賢い学生を育てたい」「異文化を理解し国際的に活躍できるグローバル人材を育成したい」という同大の想いを実現するための新しい体験型海外渡航支援制度で、学生が自ら渡航先や活動内容をまとめた渡航計画書が審査され、採択された場合は「鼎会(かなえかい)」(京大卒業生財界トップによる総長支援団体)から30万円の支援を受けることができます。

他にも外国人留学生と日本人学生が共に学ぶ「ワイルド&ワイズ共学教育受入れプログラム」やGPA制度(Grade Point Average:海外の大学や高校などで一般的に使われている、留学の際などの学力を測る指標)の導入、海外大



学と共同学位を取得できるジョイント・ディグリー/ダブル・ディグリー制度の策定など、世界に挑戦できる多様な教育・研究環境を提供しようと国際化を進めています。

「社会への窓」で 豊かな発想力を醸成

同大学では「社会への窓」を開く取り組みにも積極的です。京都全体を丸ごと大学のキャンパスとみなし、行政、経済界、他大学等との連携強化を図りながら、「京都学」関連講義の単位互換制度を推進。地域社会を理解し盛り上げる取り組みに学生が関わる場を拡げています。また、研究林の現地見学ツアーや、留学生と共に京都の昔ながらの生活を体験するフィールドワークなど、自然や文化・歴史に学ぶカリキュラムの充実も図っています。

社会との繋がりにこだわる姿勢は、多くの世界的な賞の受賞者を輩出してきた実績に基づきます。豊かな自然と高水準の文化・歴史に囲まれた京都という土地にあるからこそ、新しい発想を育み、新たな学問分野を生み出していると自負があるのです。「社会への窓」を開くことで豊かな発想力を醸成し、「世界への窓」も開き異文化理解力を高め、チャレンジする意欲を後押ししています。

「たくましい知性」と 「しなやかな感性」を育成

早稲田大学

政経学部、21年度入試から 「共通テスト」を活用

昨夏、早稲田大学の入試改革情報が受験業界を大きく騒がせました。21年度以降の政治経済学部、国際教養学部、スポーツ科学部の3学部的一般入試において「共通テスト」を活用すると公表したのです。政治経済学部では「数学Ⅰ・A」も必須科目となることから、旧来の私立文系のスタンダードであった英・国・社の文系3科目による受験ができなくなります(逆に国立大学を目指す学生にとっては、併願候補にやすくなりました)。

公表された選抜方式によると、「共通テ

スト」を100点(外国語、国語、数学Ⅰ・A、選択科目を各25点)に、英語外部検定試験を30点程度に換算し、学部独自試験の70点程度と合わせて全200点満点で選抜するとしています。学部独自試験では日英両言語による長文読解形式(1科目90分)で、記述式問題も含む予定です。

主体的な“真の学び”の場づくり 「Waseda Vison 150」

早稲田大学では、創立150周年となる32年度に向けて「Waseda Vison 150」を掲げました。前進の「Waseda Next 125」では留学生の獲得や英語プログラムの設置、短期留学プログラムの開発などの国際化を中心に進めてきましたが、「Waseda Vison 150」ではグローバル人材の考え方をさらに深化。社会の劇的

な変化に対して受け身ではなく主体的に関わりながら自ら問題を解決できる「たくましい知性」と「しなやかな感性」を備えた人材が必要と考え、人間力・洞察力を磨く主体的な学びこそが“真の学び”であると定義しました。

「たくましい知性」とは「不確実な世界で答えのない問題に挑戦し、解決を目指す能力、論理的・客観的思考能力」のことを指しています。そして「しなやかな感性」とは、「グローバルな社会で多様な人々の価値観に共感し敬意を持って接する感性=公共性と協働の基礎」のことです。

前述の入試改革も「Waseda Vison 150」の中核戦略の一つです。「たくましい知性」を標榜するからこそ、高校までの基礎的な教養という土台を改めて重要視しました。さらに、主体性・多様性・協働性に関する経験の記入をWeb出願時の出願要件(得点化はしない)としたことも、「しなやかな感性」を育成するという趣旨に通じます。

入試改革だけではなく、少人数授業の拡充や総合大学の強みを活かした3,500科目を超える全学共通科目の設

置、ボランティアやインターンシップなどの学外活動と学内での理論学修の相互関連など、主体的に学ぶための様々な教育改革を積極的に進めています。

**吉田先生の
見解・アドバイス**

21年度入試から早大政経の長文読解問題では、英語読解の大問に小論文が出題されます。京大法学部の特色入試(後期日程扱い)も、英文・和文の長文を読んで要約・意見論述する出題形式です。高校の教科としての英語というよりも、受験生に「当然のように英語で情報収集ができる」という状態が求められていることが分かります。一方、かねてより一般入試でも小論文を多く出題している医学部や慶應大文系、公募制推薦で専攻希望分野の知識・理解を試す上智大などの出題を見ているか、大学入学後の学びをイメージできているかが重要です。視野を広げて情報収集、学習しましょう。

(大学受験グローバル:国語科担当)

学ぶ志を最優先。学修の“切れ目”を取り払う「学院」制度

東京工業大学



ピーカーを招いた講堂講義の翌週に、同じテーマで少

学修における横・縦の連携を密にする「系」と「学院」

東京工業大学では、「世界最高の理工系総合大学」を目指し、グローバル人材の育成に注力。必要な素養に、自ら進んで学び鍛錬する“志”／卓越した専門性／リーダーシップを挙げ、3点を併せ持った理工系人材の育成を目指して改革に着手しています。

その第一歩が学士課程の改革です。従来、入学時に7つの「類」から希望分野を選び、2年生進級時に「23学科」から専門を選択していました。16年度からはこの「23学科」を「6学院」と紐づく「17系」に再構築。19年4月入学からは「類」を廃

止し、入学時に所属する「学院」を選べるように変更しました。これにより、それまで別々の学科に所属していた教員が複数の「系」にまたがって関わるできるようになり、学生は専門分野間をより横断的に学ぶことが可能になりました。

また、学士・修士・博士の教育の切れ目をなくすことを目指し、「学院」制度は大学院までの一貫した分野区分として活用しています。合わせて、学部から大学院までの全授業をナンバリングし、学士課程にしながら一部修士の授業を履修できたり、逆に修士課程にしながら教養科目を学べるように改革しました。「系」と「学院」で学修の縦・横の壁を取り払い、入学時から大学院までを見通し

ながらも、自らの興味・関心に基づき多様な選択・挑戦が可能な学修環境を実現しました。

リベラルアーツ教育の充実で、一人ひとりの「志」を引き出す

学生個々の「志」を育むためにリベラルアーツ教育の強化も進めています。16年度には「リベラルアーツ研究教育院」を設置し、学士課程から博士後期課程に至るまで運動した教養教育をスタートさせました。

その第一歩であり、同大のリベラルアーツ教育の象徴とも言える取り組みが「東工大立志プロジェクト」です。全学生が入学直後に取り組む教養必修科目で、ゲスト

人数のグループワークを行い、講義講義の内容を「自分ごと」として捉え直す作業をします。正解のない問いに対する答えを探し、考え続けることにより、自身を世界で活かすために必要な人間性・社会性・創造性の三本柱を育み、一人ひとりの「志」を導き出すことを狙いとしています。

東工大の改革は学修内容に止まりません。16年からは年間の区分を学期制からクォーター制に変更。留学・復学しやすい、より国際的でフレキシブルな教育環境に適應する仕組みで、学習期間の“切れ目”をなくしました。学生の留学支援にも力を入れるほか、20年には建築家である隈研吾デザインの学生の国際交流施設を新たにオープン予定で、グローバル教育にもさらに力を入れています。

※東京工業大学ホームページ「教育TOPICS」および「東工大教育改革の歩み」を参照

専門の枠を超え、総合的に俯瞰する力を育成

筑波大学

2年生進級時に専門分野を選択する「総合選抜」を導入

筑波大学では21年度（21年4月入学：新高2）の前期日程における個別学力検査で、文系・理系の選抜区分による「総合選抜」を実施すると発表しました。総合選抜による入学生は、1年生次に様々な専門分野の導入的な科目を選択して学び、2年生への進級の際に専門分野を選択します。全入学生のうち25%を総合選抜して受け入れる予定です（75%は従来通りに入学時から専門学群に所属する「学類・専門学群選抜」となる）。

また、総合選抜では「大学入学共通テスト」を活用。国語は記述式問題を点数化するほか、英語は民間の認定試験の結果を活用し、5教科7科目を900点満点に換算します。また、「研究大学として俯瞰力と専門的知識を基礎にした学際的

研究を先導する人材の育成」を目標に高校の調査書も重視。「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を50点満点で評価し、個別学力検査の1,500点満点と合わせて全2,450点満点で選抜することになります。

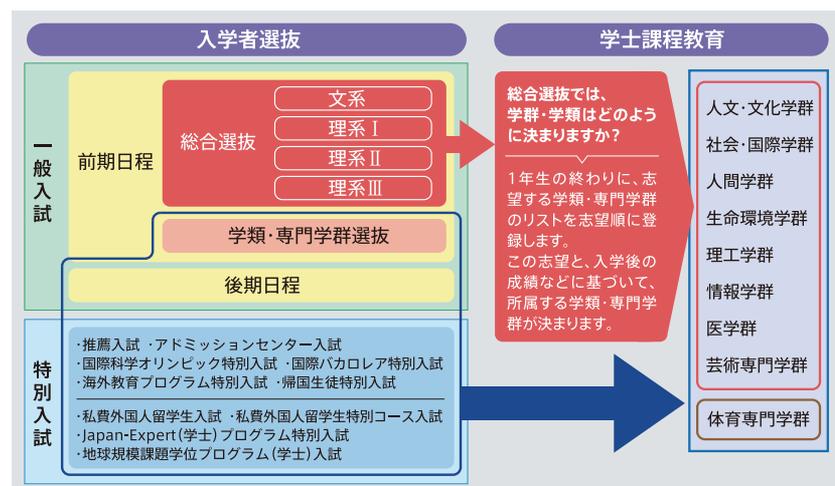
「学際性」「国際性」を進化し、「開かれた大学」へ

総合選抜に先駆け、19年度から新たなリベラルアーツ教育もスタートします。外国語や体育、情報、国語、芸術といった従来の教養科目に加えて、様々な専門分野の基礎講義も履修できるようになります。学問分野を広く俯瞰しながら、自らが学ぼうとする分野の特徴や位置づけを理解するための改革です。16年4月にはリベラルアーツ教育に強い国際基督教大学（ICU）との連携も結ん

でおり、筑波大学の学生がICUの基礎科目を履修したり、ICUの学生が筑波大で卒業研究の指導を受けたりと交流を深めています。

専門性に加えて幅広い教養も兼ね備えた人材を育成するという方針を、同大は「学際性」と「国際性」という2つのキーワードで説きます。「開かれた大学」という建学の理念から、あらゆる面で今の時代に合った大学の在り方を検討し直し、「学際性」と「国際性」をキーワードに、「地球規模課題の解決に向けた知の創

造とこれを牽引するグローバル人材の創出」を目標に定めたのです。「学際性」とは、学問領域を超えて学際的な教育研究を促し、新たな学問分野を創設すること。そして「国際性」は、国立大学にありながら地域の枠に捉われ過ぎず、日本を飛び越えて世界を見据えることを意図しています。「学際性」「国際性」のある教育機関として進化するべく、グローバル競争力の強化、国際的互換性のある教育、学生本位の視点に立った教育環境整備などにも力を入れています。



出所：筑波大学ホームページ「平成33年度（2021年度）総合選抜スタートリーフレット」

教養教育を土台に、学部再編で専門性を深化

横浜市立大学

国際総合学部を分野別に3つの学部に分割

神奈川県内唯一の公立大医学部を有する横浜市立大学は、05年に誕生した国際総合学部との2学部体制から、19年4月に同学部を「国際教養学部」「国際商学部」「理学部」の3学部に再編することを発表しました。18年4月に開設した「データサイエンス学部」と合わせた5学

部制になります。

国際総合学部ではかねてから文理融合型の教養教育を取り入れ、総合的な視点で課題解決力を養うことに注力してきました。一方で今後はますます複雑化、高度化する社会課題を解決するためには専門知識の深掘りが必要だと判断。強みである教養教育を土台にしなが、環境変化に対応できる専門性も深化させるべく教育体制の再構築に踏み切り

ました。再編に合わせ、各学部とも国際社会で通用する実学を取り入れるなど、教育内容も充実させています。

首都圏初の「データサイエンス学部」でIT人材を育成

また、「専門性」の一つの軸として同大は、18年に首都圏初の「データサイエンス学部」を開設しました。数理や統計な

どの基礎学習に加え、企業や医療機関との連携を通じたPBL(Project Based Learning: 課題解決型学習)により実務を体験し、社会に必要なコミュニケーション能力やイノベーションを起こせる発想力、次世代に通用するビジネス力を養成します。教員には統計学を中心にIT、AI(人工知能)、医療、経営などの様々な分野の専門家を迎え入れました。従来からの強みである医学部とも連携し、医療ビッグデータの解析による病気リスクの発見や難病治療の研究などを進めるほか、今年再編した3学部の経済、経営、理学など幅広い分野での応用も目指しています。

